

<白金標準、2008 年の史上最高値を更新し 3000 ドルへ・・・>



(出所：オアシス)

グリーンランド問題は債券市場から貴金属市場へと流動性資金が移動し、貴金属価格は高値追いを続けている。特に銀価格はロンドン市場やNY市場で初めて100ドルを超える動きを見せ、NY白金も2008年にプラチナ生産国南アフリカで電力喪失のブラックアウトを受けて付けた史上最高値である2584.5ドルの高値を更新している。そのため大手投資銀行が予測した3000ドルに向け、高値追いを続ける可能性が高まっている。

また週末は、日銀金融政策決定会合以降の為替が一時159.22円まで円安が進むなど投機の動きに、日銀とNY連銀がレートチェックを行ったことから、介入警戒を受けて円高・ドル安の動きへ移行した事もドル建て価格を押し上げ、NY白金は中心限月4月限で2767.2ドルまで高値を試している。またヴァルテラ・プラチナ（旧アングロアメリカプラチナ）はプラチナ価格の過去最高の上昇と運営コスト削減を受け年間利益が最大106%増加すると予想しており、2027年に行われる5年ぶりのAMCUとの賃金交渉は大幅賃上げを要求してくる可能性が高くなると思える。そのため大幅な下落は期待できない中で、当面は高値追いを続けて来ると思え、3000ドルを見るまでは強気を維持するのが妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが上昇し、シグナルも上昇している。RCIでは短期と長期が+80%以上を維持している。ただ日足と指数平滑移動平均線の乖離が拡大しており、目先の修正安には注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,358,000 円(2026 年 1 月 26 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 137,280 円(2026 年 1 月 26 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>